

ミツバチから
考える環境づくり。
**マルハチ
プロジェクト**

2010年10月、愛知・名古屋で生物の視点から環境問題をグローバルに考える極めて重要な会議「生物多様性条約第10回締約国会議:COP10」が開催されました。

人間社会は人間を頂点とした生物のピラミッド、すなわち家畜や農産物から微生物に至る膨大な生物種がもたらす「生態系サービス」の恵みに支えられて成り立っています。いま、その一部が猛烈に崩れ始めています。そのピラミッドを壊しているのは他ならぬ人間自身なのですがそのことにまだまだ多くの人は気づいていません。



名古屋の中心「丸の内」に本社を持つ三晃社は、地元名古屋で開催されるCOP10への参加と、「継続可能な社会」を実現することが広告会社の重要な課題と考え、「都心でのミツバチの飼育：マルハチ・プロジェクト」をプランし、NPOと共に開始。

ミツバチが蜜を集めるときに花粉も運び、植物は受粉し実を結びます。このように農作物にとって欠くことのできないミツバチが最近世界的に減少傾向にあるなか、都会での養蜂「マルハチ・プロジェクト」は、食、農業を通して市民に生物多様性への気づきを提供出来る最適なテーマといえます。

意外なほど採れる都会のハチミツは地元でスイーツにしたり、ビン詰めなどで提供。希少性から注目を浴び地域活性にも貢献しています。オフィスビルの屋上緑化も推進。芝生ではなく花の咲く植物や野菜を植えることで、積極的に環境配慮している企業であることをアピールできるプランを提唱しています。



ミツバチの恩恵

私たちは、ミツバチから、ロウやハチミツなどの恵みをもたらしています。ミツバチの巣は蜂ロウと言われ、ろうそくやワックスが作られます。そして、私たちが甘くておいしいハチミツを食べられるのもミツバチのがんばりがあってこそなんです。



受粉を手伝うミツバチ

多くの農作物は、自分たちだけで花粉をめしべに運ぶことができません。そこでミツバチの出番。ミツバチは花粉を体につけてめしべまで運び、農作物の実を結ぶ働きをしてくれます。



自然環境を豊かにするミツバチ

ミツバチは、樹木の実を結ぶ働きもしてくれます。そして、木の実には野鳥の餌になるので、そこには鳥が訪れるようになります。ミツバチの働きが豊かな自然環境を作り出しているのです。



撮影協力/スタジオワーク



おもな活動

- | | | |
|-------|-----|-----------------------------------|
| 平成22年 | 4月 | セイヨウミツバチ飼育開始 |
| | 5月 | 第一回採蜜（ハチミツ搾り） |
| | 6月 | 「大ナゴヤ大学」での講演 |
| | 7月 | 地元小学校の総合学習で取組み |
| | 8月 | 名古屋市イベント「まるはちの日」にブース出展 |
| | 9月 | デパートにて特集でセール実施 |
| | 10月 | COP10にて名古屋市ブース
NPOブース出展フォーラム実施 |